



学校だより

(5月号) 令和元年5月7日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢(ゆめ)に向かって ともに学びあう学校
 - ・進んで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 時間を守ろう

時は金なり

校長 河井 尚

新緑のさわやかな季節となりました。子ども達は、新しい環境に慣れ、のびのびと学校生活を送っています。一方で、心身の疲れから体調を崩す子どもが見受けられます。「早寝・早起き・朝ごはん」生活習慣を見直し、体調を整えるように心がけてください。

先月の『学校だより(4月号)』で「時を守り 場を清め 礼を正す」ことの大切さについて書かせていただきました。今月号は「生活目標」とも絡めて引き続き「時(間)」について考えてみたいと思います。

繰り返しになりますが、「時を守り」とは時間を守ることです。この意味は、相手を尊重すること、それにより自分が信用を積み重ねることです。人との待ち合わせの時間、相手を待たせることが無いように心がけることです。それは、相手を尊重することを心がけることにより、できることです。この「心がけ」が自分の信用を高めることに繋がるのだと思います。しびらきっ子達は、朝の登校時や朝会で体育館に集まる時など、しっかりと時間を守っていてとても素晴らしいと思います。自慢できる素敵な学校です。日々の授業をはじめとする学校生活での様々な場面で「予定の開始時刻よりも前に姿勢を正し、心を静め、開始を待つこと」を心がけてほしいと思います。

ところで、この世には誰にでも公平なものがあります。何だと思われませんか。それは「時間」です。世界一の大金持ちでも、エジソンやアインシュタインのような偉人でも、世界一忙しいと言われる大統領や首相でも、1日24時間です。その平等な「時間」をどのように使えばよいのでしょうか。「時間」にまつわる名言をいくつか紹介します。参考にしてみてください。

「一日一字を記さば一年にして三百六十字を得、一夜一時を怠らば、百歳の間三万六千時を失う。」 - 吉田松陰 -

「時間だけは神様が平等に与えて下さった。これをいかに有効に使うかはその人の才覚であって、うまく利用した人がこの世の中の成功者なんだ。」 - 本田宗一郎 -

「うまく使えば、時間はいつも十分にある。」 - ゲーテ -

「少年老い易く、学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず。」 - 朱子 -

「今までに、これだけはやったな、と言える練習はどんな練習ですか?」という質問に、「僕は高校生活の3年間、1日にたった10分ですが、寝る前に必ず素振りをしました。その10分の素振りを1年365日、3年間続けました。これが誰よりもやった練習です。」

- イチロー -

雑学コラム「時の記念日」

天智天皇10年の4月25日に漏刻(ろうこく水時計)が設置され、宮中に時がつげられるようになりました。この天智天皇10年4月25日を太陽暦に直すと671年の6月10日になります。この日を、東京天文台と生活改善同盟会が、大正9年(1920年)に「時の記念日」として制定しました。当時の日本国民に「時間をきちんと守り、欧米並みに生活の改善・合理化を図ろう」と呼びかけるとともに、時間の大切さを尊重する意識を拡げるために設けられたということです。